



馬耳東風

今年に入って2度目のインドネシア・ジャカルタ出張を無事に終え、スカルノハッタ空港の丸亀製麺でうどんを食べながらこの原稿を書いている。ペールをまとったスタッフにうどんをサブされるという、なかなかカオスな状況である。前の席では中国人の若者グループ、後ろの席ではイスラムの家族がうどんを楽しんでいる。このうどんチェーン、揚げ物好きな国民性とマッチしてここインドネシアでは大好評らしい。

インドネシアは今まさに大統領選挙のまっただ中で空港の保安体制も今までになく厳重で物々しい。久々にホテルの入り口で自動小銃を持ったセキュリティーに遭遇した。この原稿が掲載される3月には国内が一段落し、いったん休止していた政策、外交、経済が一気に再スタートすることが予想される。どのような変化をもたらすのか個人的にはとても興味深い。

話は変わるが、昨日カナダに留学中の20代獣医師から相談したい、と連絡が入った。内容は自分の周りの学生、同年代の獣医師は皆、ChatGPT片手に勉強している。図書館でも彼らのPC、タブレット画面には常にChatGPTのアプリ画面が立ち上がっているとのこと。そこでこれからの動物医療にAIはどこまで活用されていくか私の意見を聞きたいと言うものだった。私の答えはAIを活用するというよりは、むしろこれからはAIを中心において医療は組み立てるべきと伝えた。AIにできることは全てAIに任せ、人間にしかできない役割の創造こそが喫緊の課題であると。

会員諸兄からは何を言っているのだと怒られるかもし

れないが私の中ではもはや確定的な未来図である。さらに、私は専門家ではないのでシリコンバレーのGoogleの私の友人を紹介し、面会を勧めたところ、2月中にトロントからシリコンバレーを訪問してインタビューするアポイントを取るとのこと。久しぶりに若者らしい彼の行動力に触れてなんだかとても嬉しくなった。

さて、先ほどインドネシアの大統領選挙に触れたが、ここから先に予想される世界的な主要なイベントに目を向けてみると、ロシア大統領選挙(3月)、インド総選挙(4月/5月)、EU議会選挙(6月/7月)、英国総選挙(おそらく秋)、米国大統領選挙(11月)が控えている。これらの世界の動きは、一見われわれとは無関係に思えるかもしれないがわが業界も遅かれ早かれ、確実にその影響を受けることになる。ことと次第によっては業界各所で大きな変革を迫られる事態もあるやもしれない。

獣医師会の役員時代によく会員の先生方から、政治とカネの話はやめてくれ、そういうことをやりたくないからこの職業を選んだのだから、と言われたものだ。果たしてそれでよいのだろうか、未だ世界の各所で戦争や侵略が継続し、世界の食糧事情が大きく変化し、身の回りでは動物病院のM&Aが活発に展開されているその中にわれわれは存在すると言う現状。そこに目を向けなくて大丈夫なのだろうか？ 社会の中にわれわれはまさにいる。そこは決して無縁になれないことをいまさらながらに痛感する日々である。

そうだ！ ChatGPTにこれからのわれわれの業界の課題、動向、その中での対処の仕方、そしてその行く末を聞いてみよう。

どんな答えが返ってくるかとても興味深い。(も)